

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
243	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
Investigation of Public Needs on Alcoholic Beverages 酒類に関する国民ニーズ調査	
執筆者	
倉光潤一、宇都宮仁、橋爪克己	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
酒類総合研究所報告、No.180 Page.57-72 (2008)	
キーワード	
酒類、国民ニーズ、健康	
要 旨	
<p>食や飲料に関して国民が求めている情報はその時々、社会的、経済的及び文化的影響を受け、酒類に関する情報の内容や要求度合いも変化する。酒類に関する国民のニーズについて4501名（男女同数、20代：30代：40代：50代以上=約2：3：3：2の割合）に対し調査を行い（有効回答者数3294、有効回答率73.2%）、前回調査（14年調査）からの変化等について検討した。酒類全般に関する関心分野では、「成分・品質」、「料理との相性」、「種類」が上位を占めた。14年調査と比較すると、男性では全世代で「料理との相性」、40代及び50代以上では「健康」、30代女性では「価格・酒税・格付」に対する関心の割合が増加した。一方、社会生活を営む上で必要な情報では、「飲酒と健康」、「一般知識」、「公共での飲酒マナー」の関心割合が高かった。14年調査と比較すると、「飲酒マナー」、「公共での飲酒マナー」が低下し、「一般知識」「飲酒と健康」及び「新成人への知識」に対する関心が増加した。</p>	